

11. マリアン・マキリンの伝説

伝説によると、神々が、普通の人間のように生きていた頃があったようです。神々は魅力的でしたが、彼らは話したり、愛したり、市場へでかけたり、そのほか、わたしたちの時代に人々がやるのと同じようにやれたようです。この物語は、ふたりの神様の間にできた娘に起こった出来事を伝えています。それはマリアン・マキリンの物語です。

昔、ふたりの神様、ダヤン・マキリンとガット・パナホンがいました。彼らには、マリアという名前前の一人娘がいました。彼女の美しさとかわいらしさのために、彼女は両親の喜びでした。彼らには、マリアは喜びと力の源だったのです。彼らは彼女のことを金にかえられない宝石、光と笑いのあふれる生活の宝物のように考えていました。

彼女の両親は魅力的な力を巧みに使う神様だったので、マリアは普通の人間ようではありませんでした。そして、彼女は普通の人々と交際していましたが、彼女はやはり神様の階級に属していました。

その頃、人々は神様と顔と顔を合わせて話すことができず、木の下で、一緒に腰をかけることもできませんでした。人々はまた、困っている時には、神々からの助けを頼むこともできました。そうすると、神様は厳かな方法でそれを提供しました。

神様は自分勝手ではありませんでしたので、彼らのできるあらゆる方法で人々を助けました。

マリアは平日には時々、タリパパと呼ばれる小さな市場に出かけるのを習慣にしていました。他の若い女性たちと同様に、彼女はそのような機会には、花の刺繍をして広い縞模様に入った絹の服を着てでかけました。当時はそのようなファッションだったのです。マリアには、長く豊かな髪があり、よくポメロの花で飾っていました。彼女が市場に行くときは、彼女の流れるような髪は、足まで届くほどでした。彼女は魅力的な目を持っていて、女性さえ彼女に引き付けられて、挨拶するほどでした。彼女が通りかかると、若い紳士たちはおじぎをして敬意を表しました。

マリアが市場に出かけるときは、いつもふたりのアエタ族の同伴者がいて、召使として仕えていました。彼らはマリアの後ろについて、黄金

の生姜を籠いっぱいを持っていました。マリアは黄金の生姜を物々交換で、ブリの敷物、絹の布地、そのほか、家に必要なものを手に入れていました。その頃は、わたしたちが知っている現在のお金のようなものではなくて、そのかわりに人々は物々交換をしていたのです。

市場のある日は、マキリンの土地の人たちは、タリパパに出かけて、その時自分たちの商品を持って行き、彼らの必要なものと交換するのです。商人や隣町からの人々も仕事にやってきました。周りの人々は、大忙しで歩き回っていました。

ある日、パイ王国の支配者であるガット・ドゥラがマキリンのタリパパにやってきました。彼は王室に属する人で、彼は物々交換の仕事だけでなく、時間をのんびりすごすために来たのです。マリアン・マキリンも、たまたまそこにいました。実を言うと、奇妙な一致が起こって、ガット・ドゥラもマリアも、彼らの商品と珍しい動物の毛皮を交換したいと思っていたのです。その時、彼らの方が触れ合い、お互いを見つめました。知らないうちに、ガット・ドゥラはやわらかいものに触りました、マリアの暖かな手です。彼らは同時に動物の毛皮を持っていたのです。

尊敬とおわびの印に、ガット・ドゥラは静かにマリアの方向に彼の頭を下げておじぎをしました。彼女の側では、マリアは、後ずさりして謙遜を表しました。そして、お互い紹介し合いました。そして分かれる前に、しばらく会話がありました。ガット・ドゥラは、マリアの唇の恥ずかしそうな笑顔の印象が残りました。

その最初の出会いから、ガット・ドゥラは、しばしばダヤン・マキリンとガット・パナホンの宮殿を訪問しました。ついていないことに、彼はそれらの訪問で、マリアに逢うことはできませんでした。そして、ある日、彼は最初に逢ったのと同じ、小さな市場でまたマリアを見たのです。彼女を見てどんなにうれしかったことでしょうか。マリアの姿を見ただけで、彼の心は喜びの歌を歌いだしました。彼は自分自身に「おそらく、もしわたしが幸運なら、わたしの努力と犠牲は無駄にならないだろう。」そして、彼はマリアに近づき、挨拶しました。彼女は甘い笑顔で答えました。

それが彼らの友情の始まりであり、それが数ヶ月過ぎて、愛へと花開きました。ある日、森の小川の縁を歩いていて、彼らはお互いの本当の気持ちに気づいたのでした。彼らは深く愛し合っていることを悟りました。彼ら以外に、周りのことは

フィリピン 神話と伝説

何も気づかないで、彼らはお互いの目を見ていました。しかし、彼らは自分たちの心にあることを口に出して語ることはできませんでした。

時が過ぎて、マリアとガット・ドゥラの間の愛の出来事は、彼女の両親、ガット・パナホンとダヤン・マキリンの気づくところとなりました。ダヤン・マキリンが静かに苦しんでいる間、ガット・パナホンは怒っていました。彼らの一人娘が恋に落ち、相手が彼らのような神ではなく、人間だったからです。やさしい母は、マリアに愛の出来事について聞き、マリアは母にそれについて語りました。

ガット・パナホンとダヤン・マキリンは、その時からマリアの行動を制限しました。彼らは彼女がタリパパにもあるいは世界のどこに行くのも禁止しました。彼女は宮殿の中にしか居られませんでした。両親は、マリアから、彼女が人間のように行動できる魔法の力さえも奪ったのです。ガット・パナホンとダヤン・マキリンが娘にそのような制限をした結果、その時から人々は神々から分けられた、とされています。

しかし、マリアのガット・ドゥラへの愛は真実で誠実なものでした。彼女にはひとつの心とひとつの愛があり、その両者はただ、ガット・ドゥラへのものでした。ガット・ドゥラも彼のマリアへの愛のことは、誠実で真実でした。彼女が以前のように人間と交わる力を奪われて、もはや人間の世界に入って行けなくなっても、いまだにガット・ドゥラはいつも彼女のことを思い、彼女を愛し続けていました。彼の孤独の真ん中に、マリアは時々、彼のいるところに現れました。しかし、彼女に近づこうとすると、彼女は不思議に消えたのです。ガット・ドゥラには、それは悪夢のようなものでしたが、彼のマリアへの愛は決して揺れるものではありませんでした。

そんな昔の時代では、隣の国どうしの戦争は一般的でした。ルカン・ブントという近くの領地の支配者が、パイ王国を襲撃してきました。ガット・ドゥラはその支配者だったのです。戦いの中で、勇気のあるガット・ドゥラに従って、彼の兵士たちは勇敢に戦い、ルカン・ブントの侵略を敗北に追い込みました。ガット・ドゥラの傷はひとつやふたつではありませんでした。そして、マリアの愛は、ただ彼を勇気付けただけではなく、実際に害から守る鎧のように彼を守ったと言われています。ガット・ドゥラはその後も多くの戦いで勝利しました。彼は敵から守り、征服しました。しかし、マリアへの彼の大きな愛を征服する

ことはできませんでした。

マリアに逢うことができず、いまだに、もう一度何とか彼女に会えることという空しい望みを抱いて、ガット・ドゥラは病気になりました。それから数週間して、彼は死にました。マリアは恋人の死を知らされ、神々にガット・ドゥラの魂を自分に与えるように頼みました。彼女の要求は承認されました。

ガット・パナホンとダヤン・マキリンが死んでから間もなく、マリアは両親が残した富と宝を相続しました。彼女はまた、両親の力と権威、マキリンの支配者になることも相続したのです。支配者として、彼女はその民のことを忘れませんでした。彼女は彼らの必要について、世話をしました。彼女は慈悲深く、親切な心を持っていました。それは彼女の死んだ母が今も生きているかのように、マリアは金の生姜を領土のすべての家の畑に蒔きました。誰かが結婚するのに、もし衣装や必要な品物を持っていないなら、それを貸しました。助けと補助のためのどの要求もこれまで拒絶されませんでした。

時が来ました。しかしながら、マリアの親切、同情、善意は人々から忘れられ、無視されていきました。彼らの多くは、もはや感謝の負い目を持っていませんでした。そして、時々、貪欲と不誠実のため、マリアの結婚の品物を借りても返さないで、タリパパで他のものと物々交換するようになりました。ついにマリアの忍耐も擦り切れ、そのようなことに怒り始めました。彼女は自分自身に、これはどうしてやるのかと言うようになりました。

恩知らずの行為への罰として、マリアは、人々が厳密に従うように、いくつかの手段を講じました。彼女は森の果物を取ることを認めませんでした。野生の動物の狩猟を禁止しました。野生の鳥や鶏を捕ることを禁じました。そしてはっきり、もし誰が彼女の命令に従わなかったら、即座に有罪の者たちに罰を与える、ということにしました。どんな彼女の命令への違反に対しても、マリアは空を暗くして激しい雨を降らせました。そして、森へ行って鞭で恐ろしい水牛を鞭打ち、光を起こすのでした。

今日、マキリン山はラグナ州の畏敬される威厳を持ってそびえています。力と自然の美の象徴として知られているだけでなく、マリアン・マキリンの伝説を思い出させるために役立っています。

フィリピン 神話と伝説

練習問題

新しい言葉の学び

A群とB群を結びつけなさい。綴りだけ答なさい。

A

- 1 . deities
- 2 . enchanted
- 3 . solemn
- 4 . talipapa
- 5 . tantalizing
- 6 . signify
- 7 . gallant
- 8 . coincidence
- 9 . responded
- 10 . enabled

B

- a. helped
- b. serious
- c. small market
- d. courteous
- e. beautiful
- f. answered
- g. show
- h. gods
- i. two events happening at the same time
- j. surprised

各段落の主要な考えを言いなさい。

あなたの紙に1から20まで番号を書きなさい。物語の20の段落それぞれの中心的な内容を見つけて、あなたの紙の上にあなたの答を書きなさい。

明確化と発展の評価

- 1 . 物語は、マリアン・マキリンが、外見から見て、大変注意深い人物であると語っています。あなたも、外見、たとえば、きれいで体裁の良い服とか、髪の身だしなみなどに注意を払う方ですか？
- 2 . 昔は、フィリピンの首領たちによって支配されていた王国や領地の間で抜け目のない争いがありました。別の言い方をすれば、国家としての統一とか愛国心などまだなかったのです。この統一の欠落ということが、フィ

リピンを外国が植民地にするのを容易にさせた、とあなたは考えますか？

- 3 . 現在、わたしたちはどのようにして、国民であることの意識を発展させ、フィリピン人の間で国民意識の精神を活動的なものにできるでしょうか？
- 4 . わたしたちにできる国民意識によって、実施できるいくつかの方法を挙げて、名前をつけなさい。